

発表原稿

NPO法人活きの勝山博行です。生きるは身体障害者の自立と社会参加を目的として取手市で活動している団体です。今日は僕が外出した際の公共交通機関の対応とエピソードについてお話しします。僕は生まれつき脳性麻痺という障害で車椅子に乗っています。昔から両親と一緒に車で出かけていました。小、中学校は親がつくという条件で通学しました。

高校は、下妻にある養護学校に行きました。養護学校では自立の第一歩として簡易電動車椅子に乗り始めました。高校では、車椅子に乗った友達ができ友達と何人かで卒業した今も買い物に行ったり、カラオケやボーリングに行ったりしています。平日は取手にある障害者福祉センターと生きるに通っています。福祉センターに通い始め、今年で7年目を迎えますが5年ほど前に24時間テレビから電動車椅子をいただき、電動車椅子の先輩が乗り方を教えてくれたおかげで今まで以上に行動範囲が広がりました。3年ほど前から福祉センターと生きる、そして遊びに行く際に電車とバスを使って移動しています。

現在、毎日取手 寺原駅間、取手 新取手駅を利用しています。

私鉄に乗り始めた当初は出発駅から到着駅への連絡が伝わってなく降りることができず、大変困りました。そのときは運転士の方に声をかけ、降りることができましたが、しかし、きちんと連絡をしてもらわないと私たち障害者は人に手伝ってもらわないと降りられないので困ります。ほかにも私鉄の取手駅はエスカレーターしかなく、エスカレーターの方では、時間がかかっていました。車椅子利用者が大勢で出かけた際もとても時間がかかるのでなるべくエレベーターをつけてもらえるよう検討してほしいです。それから、10時から16時までの時間帯は無人化ですが障害者がいつでも電車に乗れるように配慮してほしいと思います。まず最初に私鉄の対応ですが、乗り降りする際にホームと車両の間にスロープ板を渡してもらっています。みんな親切にしてくれています。しかし、取手駅は改札からホームに下りる際エスカレーターしかないのどうするのかと思ったらのぼりと下りを逆にし、平らになる部分に僕を乗せ、再起動をかけて降ります。普通の手すりなので最初は不安でしたが、今は安心して乗っています。

降りる駅にも乗った駅から連絡が行き、降りる駅でも駅員さんが待っていてくれ、安心して降りています。しかし2年ほど前から鉄道会社の都合である一定の時間(10時から16時)の間、管理駅以外は無人化になりました。僕はその話を聞いてどうしようと思っていたら私鉄本社の方が、市を交えて私たち障害者に対し、無人化の際の利用方法について説明してくれました。無人化の時間帯に乗る際は、守谷駅に電話をし、各管理駅から駅員さんにきてもらっています。これにより毎日スムーズに乗れています。

次にJRの対応ですが、ほとんどの駅にエレベーターがついているので安心して乗れますが、ほとんどの駅が降車駅のエレベーター付近に乗せてくれますが、たまに号車指定のある駅があり、必ずエレベーターから遠い位置なので、ホームを走るのが危険なのでお互いのために降車駅のエレベーター付近に乗せてほしいです。

最後にバスの対応ですが、目的地が駅から遠い場合、周辺に止まる路線バスを利用しています。路線バスを利用する際、普通のバスでは乗れないのでノンステップバス、またはワンステップバスを手配してもらっています。ただ全部のバスが車椅子対応ではないので路線を調べ、各営業所に2週間前に電話をし、乗る日時と行き先を伝えは医者をしてもらっています。各営業所ともこころよく対応してくれています。当日、乗り降りの際も運転士さんが親切に対応してくれます。これらのことから障害者でも自由に外に出て電車、バスを使うのも障害者の権利の1つだと思います。僕はこれからもたくさん公共交通機関を利用し、もっと障害者が公共交通機関を利用しやすくなるようはたらきかけていきたいと思っています。